



作・絵 幸徳環境設計

長く永い冬は終り、大地に緑が芽吹く頃。

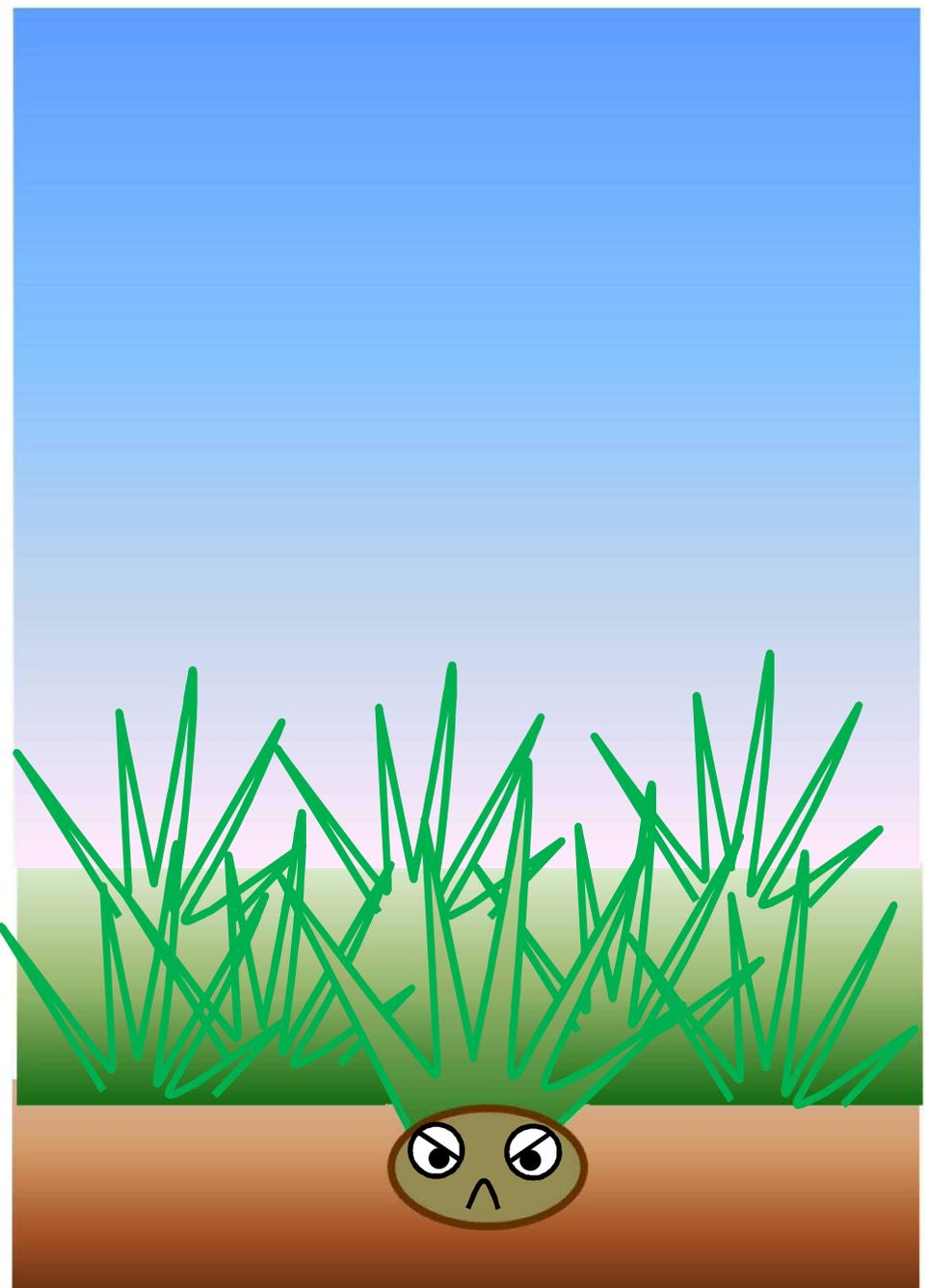
おれは、長い冬の眠りから目覚めた。

「あー、よく寝たな」

おれは、雑草。

野にある緑の大部分を占める雑草だ。

そう、おれ達が大地を緑一色に染めあげる。





おまえ達に、おれ達の社会を教えてやろう。

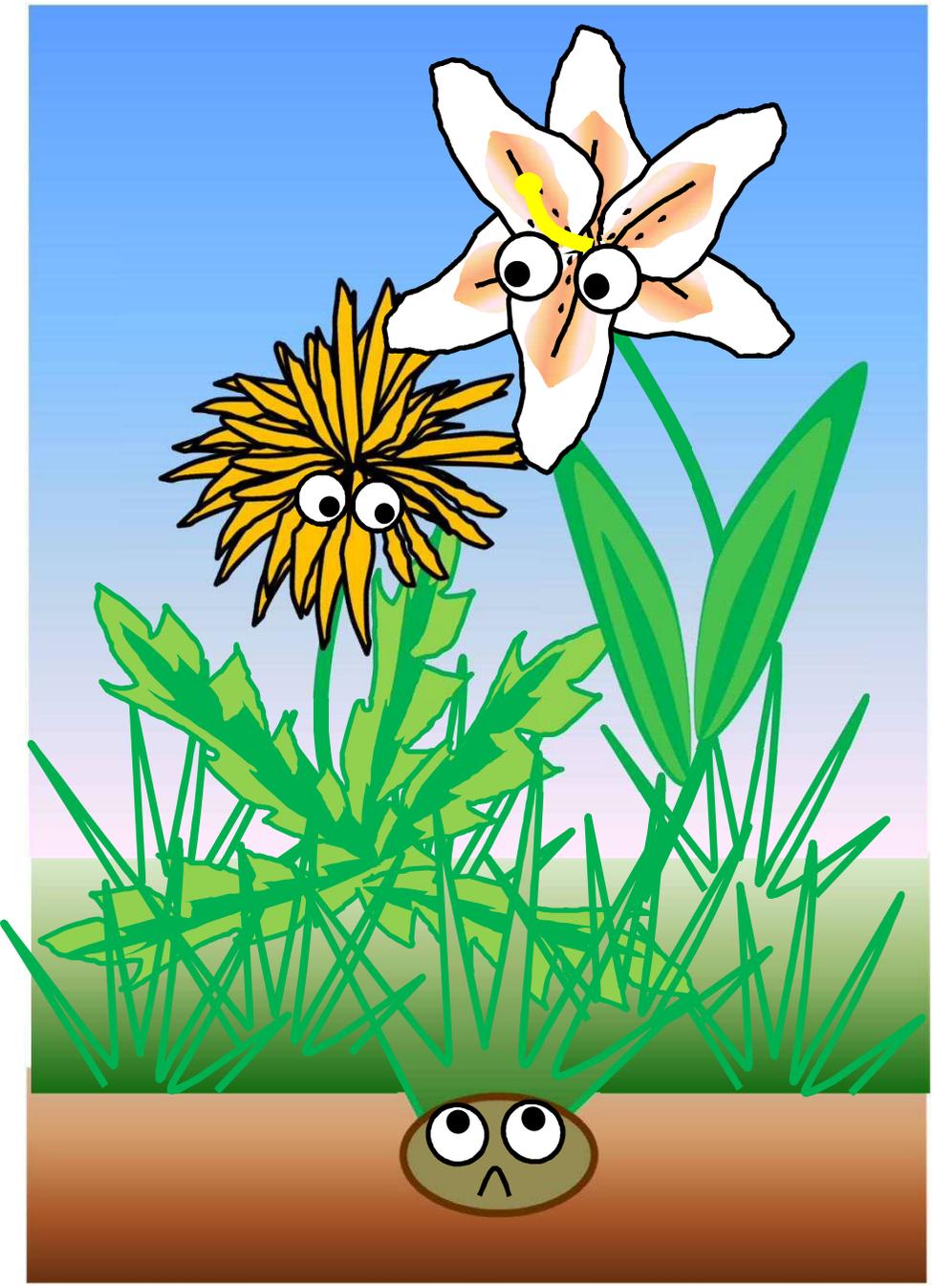
分かりやすいように、説明してやる。

自分たちを中流階級と思っているやつらが、

一応、名前が知れている野花のやつらだな。

タンポポやレンゲ、ナノハナ、マーガレット。

こいつらは、おれ達雑草よりは上だと思っていやがる。



そして、上流階級と思っているやつら。

こいつらは、花屋で売り物になるやつらだな。

ユリやバラ、カーネーションにキク。

こいつらのやつらは、値段が付く分、

野花のやつらより、上だと思っていやがる。

おれ達雑草のように、邪魔者扱いされないやつらだ。

そして、おれ達、雑草。

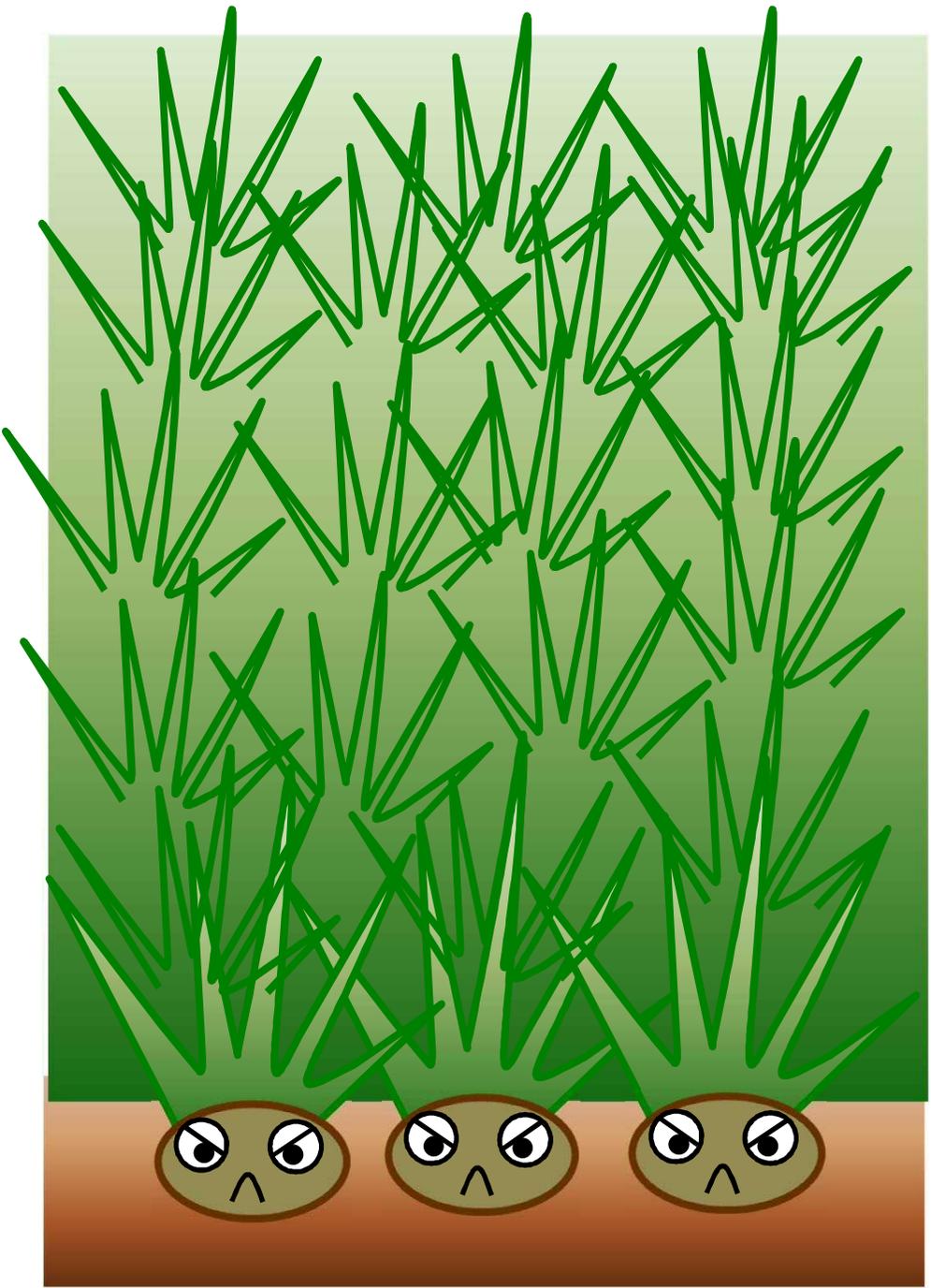
名前もない。

見向きもされない。

「雑」という、言葉で片付けられる。

そんな、ただの「草」。

そう、おれ達が下流階級とされている。



ある時は、犬のフンをかけられる時もある。

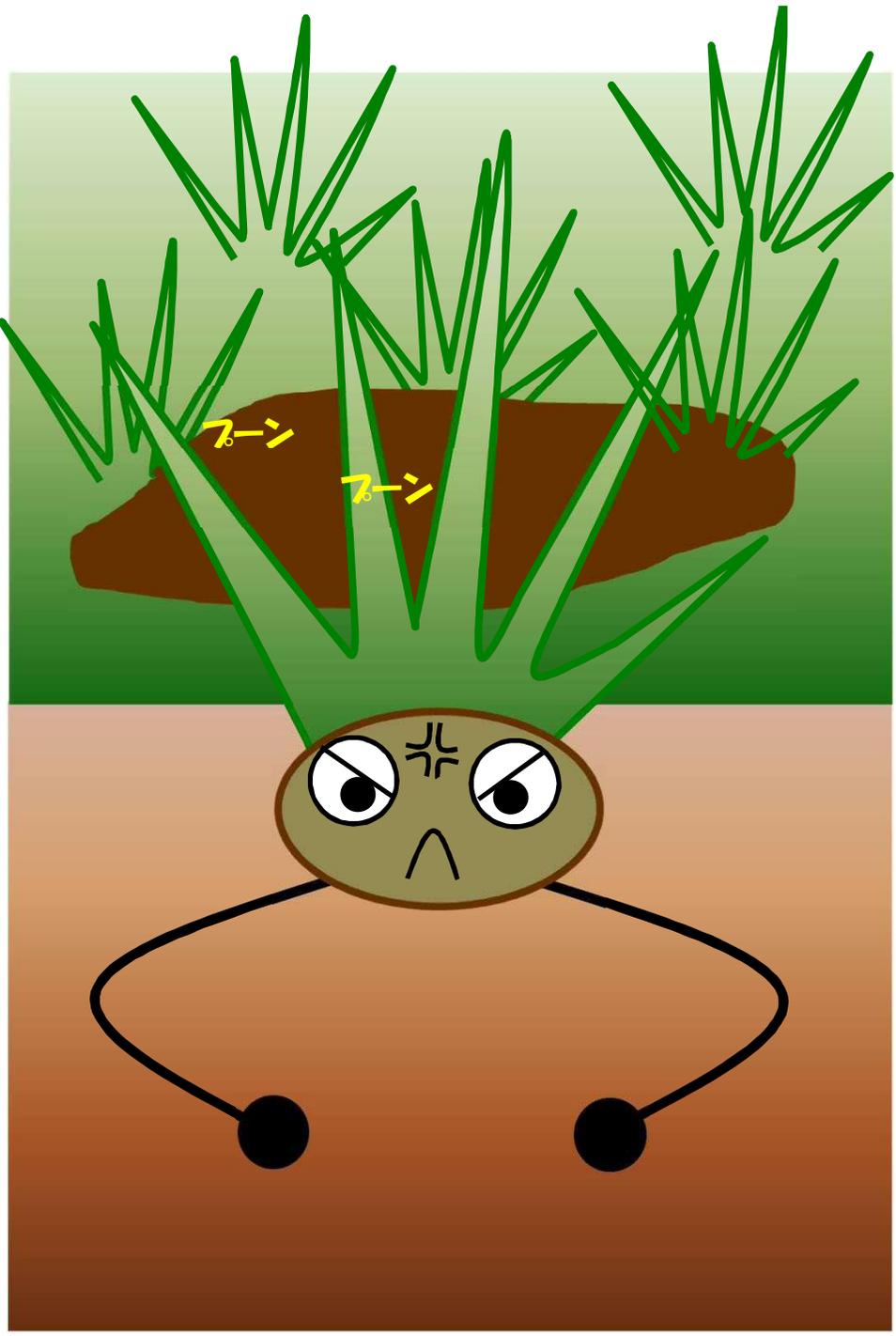
けれど、おれ達は負けない。

「くっせーなー」

犬の野郎、忘れるな。

おれ達雑草は、おまえのクソを肥しにしてやる。

ざまあみろ！



ある時は、踏みつぶされる時もある。

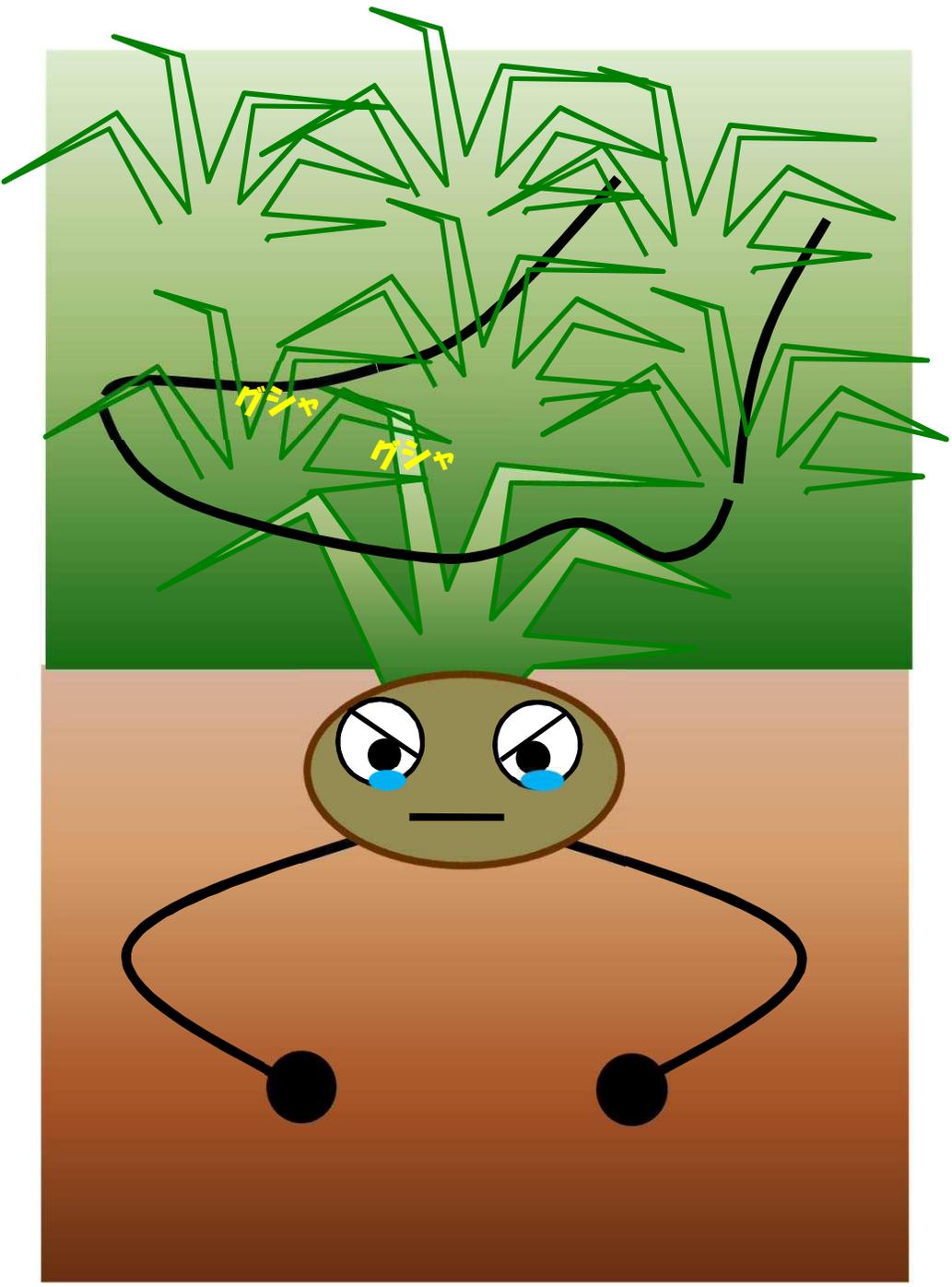
けれど、おれ達は負けない。

「いってーなー」

この野郎、忘れるな。

おれ達雑草は、踏みつぶされても、また立ち上がる。

ざまあみろ！



ある時は、ひっこ抜かれる時もある。

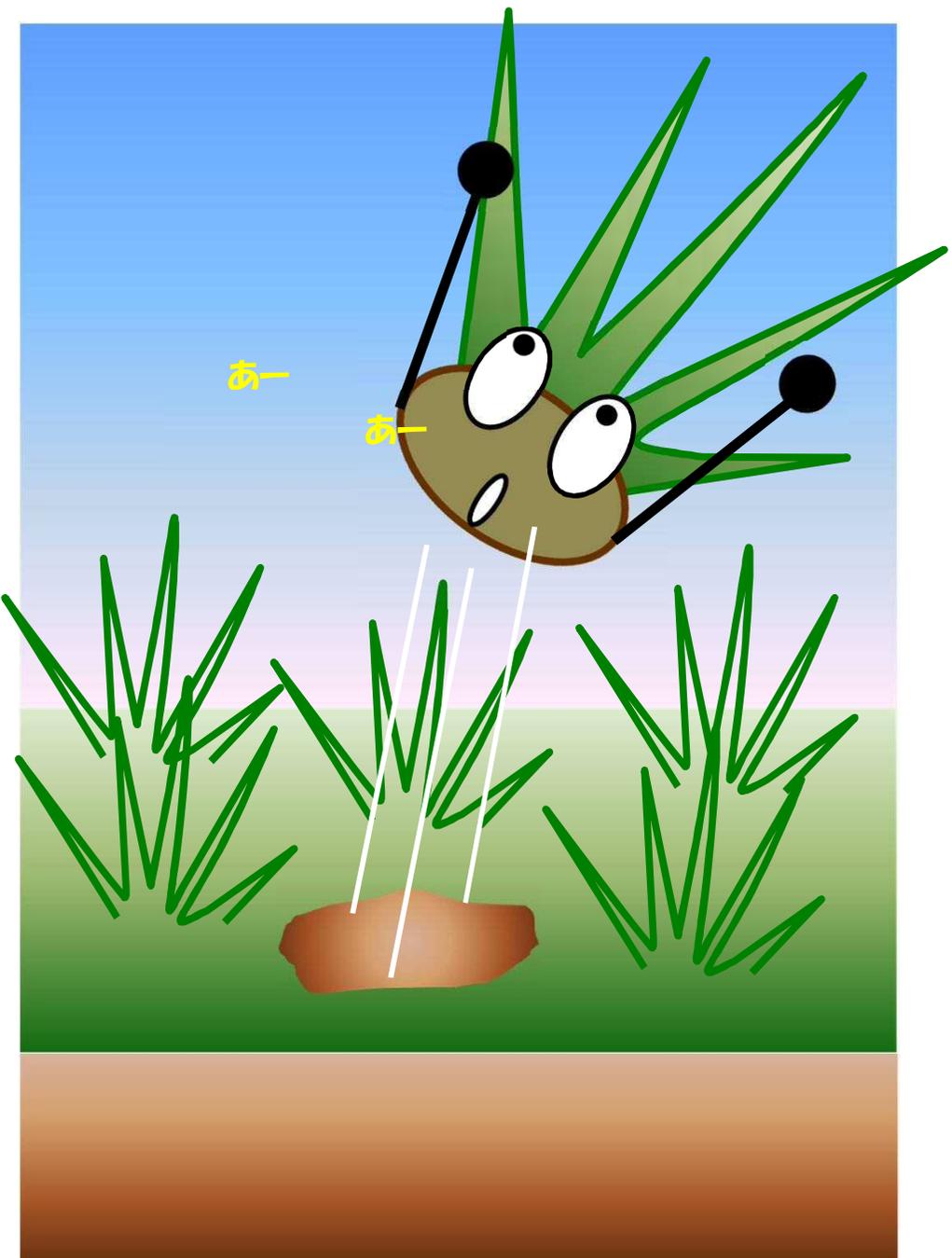
けれど、おれ達は負けない。

「あー、あー」

この野郎、忘れるな。

おれ達雑草は、また大地に根付いてやる。

ざまあみろ！



どんな事をされても、どんな事が起きても、

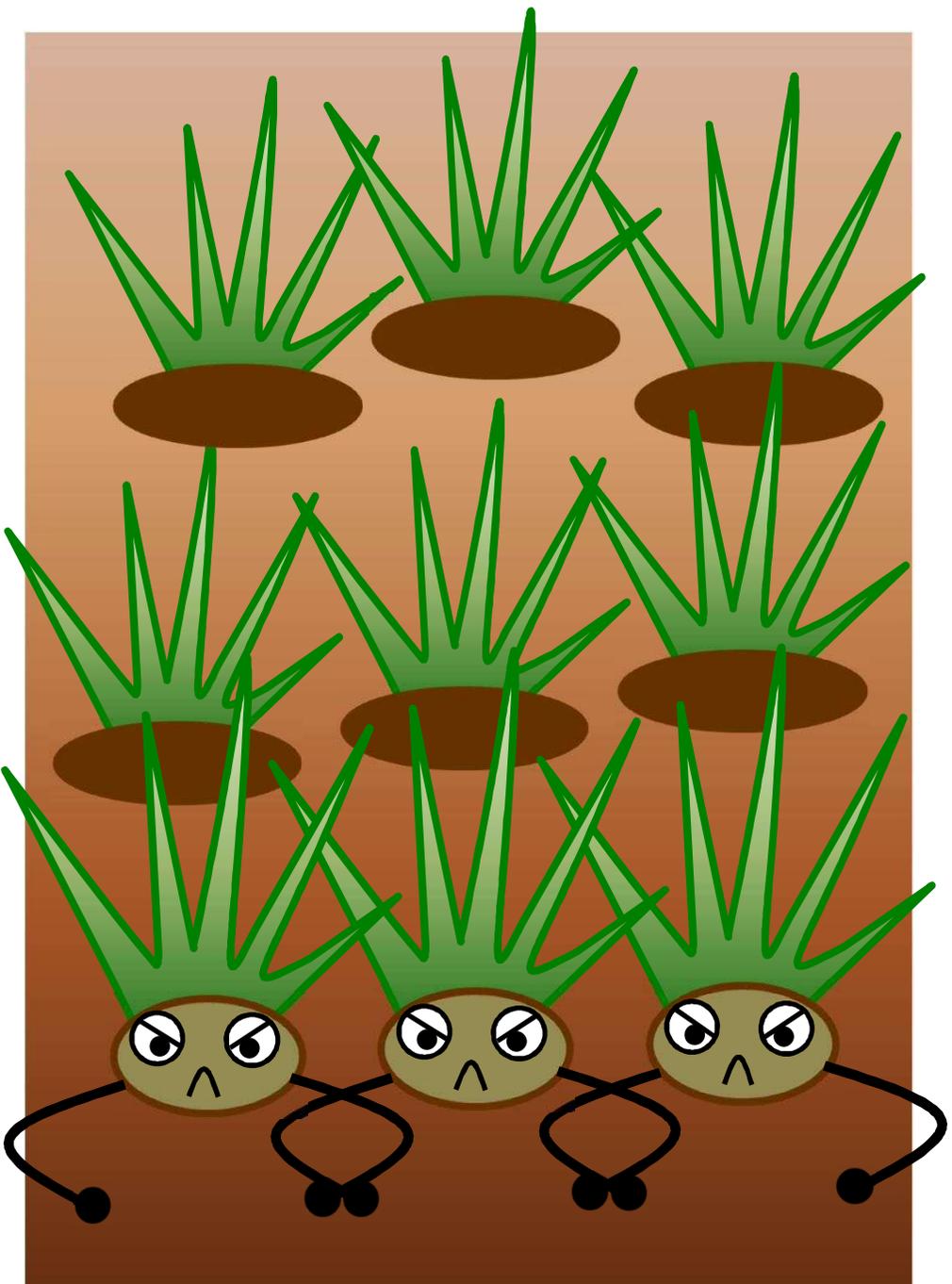
おれ達は負けない。

「ガッツだぜ」

おまえら、忘れるな。

おれ達雑草は、何度でも這い上がってくる。

ざまあみろ！



例えば、

踏みつぶされたタンポポが、

もう一度、立ち上がる事ができるか？

できないだろう。

そんな根性は、ありゃしない。

そうだろう。



例えば、

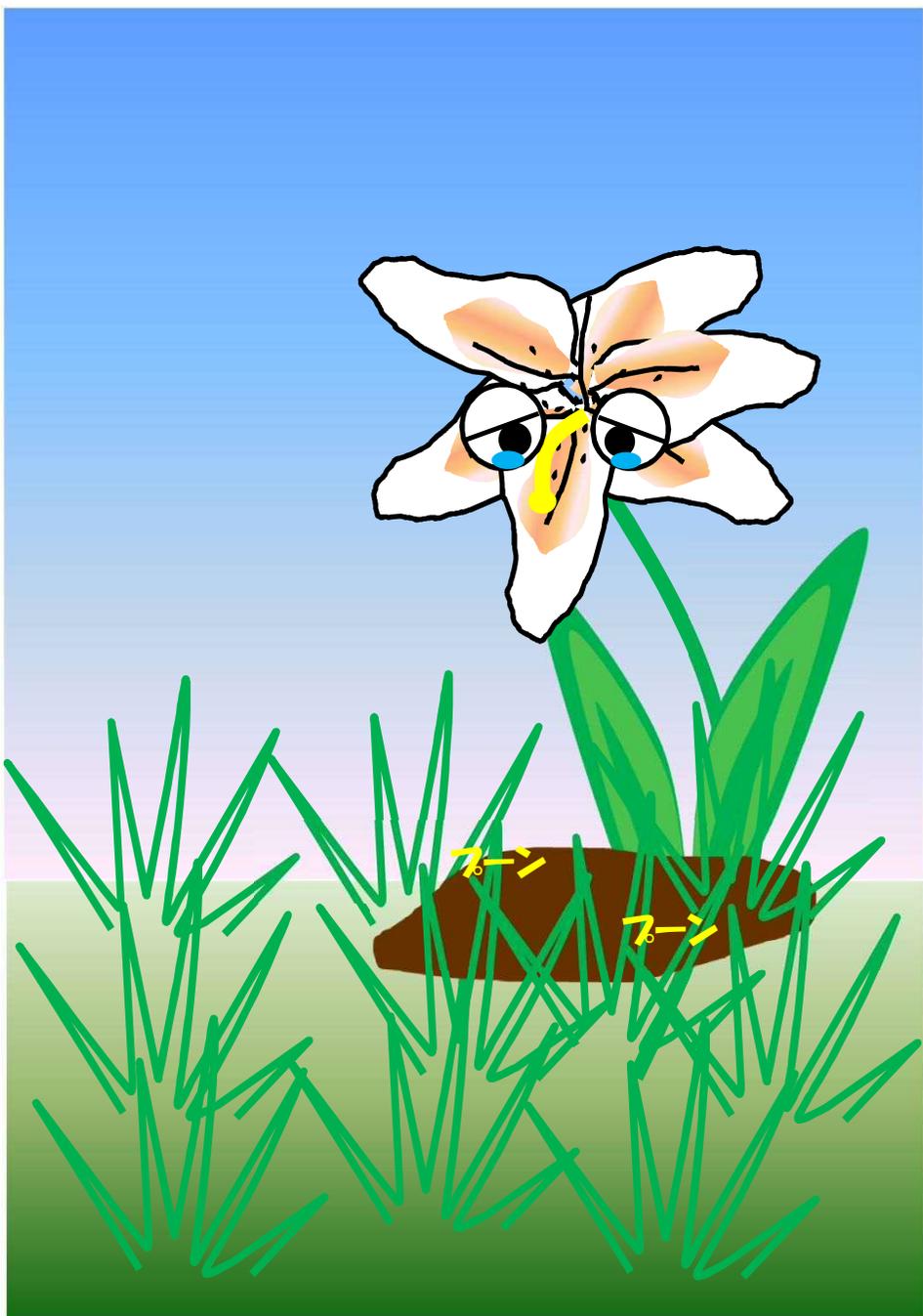
犬のフンがついたユリを

人間が、買ってくれると思うか？

無理だろう。

それに気位の高いユリが、そんな事には耐えられない。

そうだろう。



そうなんだよ。

そういう事なんだよ。

おれ達雑草が、一番だ。

おれは、雑草である事を誇りに思う。

おれは、雑草である事を幸せに思う。

そうだろう。そういう事だ。そうなんだよ。

(おわり)

